

令和7年度 大分大学教育学部附属中学校公開研究発表会 実施要項

1 開催趣旨及び目的

学習指導要領解説 総則編（平成29年改訂）では、学習者が「主体的・対話的で深い学び」を通じて三つの資質・能力を高めることが求められている。その際には、単元や題材など、内容や時間のまとまりの中で学習の見通しを持ち、振り返りの場面をどこに設定するかを考え、実践することが重視されている。さらに、OECD PISA 2022において、日本の15歳が読解力や計算力で世界上位を維持している一方、「学校が再び休校になった場合、自律的に学習できる自信があるか」という問いに対し、多くの生徒が「自信がない」と回答した。これは、感染症や災害など非常時だけでなく、変化の激しい社会を生きる上でも、自ら学び続ける力が十分に育っていないことを示している。したがって、日常的に自律学習の経験を積ませることが重要であり、自律した学習者を育成するための取り組みを進める必要がある。加えて、全国学力・学習状況調査では、学習の目的を意識して振り返りを行う生徒ほど成績が安定する傾向が示されている。

こうした社会的・制度的要請を踏まえ、昨年度はまず授業者が見通しと振り返りを往還できるよう、①単元全体を見通した授業設計、②評価規準や評価基準の明確化、③授業・指導改善に向けた授業者自身の振り返りの三点に注力した。今年度は、学習者が見通しと振り返りの往還を通じて自らの学びを俯瞰し、自己調整できるようにすることに注力する。

その実現に向け、単元冒頭で「単元のめあて」や「単元を通して追究する課題」を明示し、学習者にゴールまでの道筋を俯瞰させる。さらに、各教科の「見方・考え方」と観点別評価の「思考力・判断力・表現力等」との対応関係を整理し、それらの資質・能力を発揮できる学習場面を計画的に設計する。評価は学習のプロセスを支援する形成的評価を軸に据え、授業内外で随時フィードバックとリフレクションを行う。総括的評価は生徒の力が高まった「ここぞ」という場面を捉えて実施する。その際、授業者が評価規準に照らしたより具体的な判断基準（評価基準）を設定しペーパーテストだけでなくパフォーマンス課題、口頭発表、レポートなど多面的な手法で到達度を測定していく。

これらの方針を踏まえ、教師と学習者が見通しと振り返りの往還サイクルを共有し、単元全体と各授業の双方向で共に省察し続ける新たな授業モデルを構築する。このモデルを通して、学習者が自らの学びを調整し、変化の激しい社会で求められる「思考力・判断力・表現力等」を育成するとともに、これらを多面的に評価する具体的な手立てを提案する。

2 研究主題

自身の学びを俯瞰し自己調整する自律した学習者の育成
～「思考力・判断力・表現力等」の育成と評価方法の充実～

3 主催 大分大学教育学部附属中学校

4 期日 令和7年9月26日（金）

5 会場 大分大学教育学部附属中学校 〒870-0819 大分市王子新町1番1号 TEL 097-543-6731

6 日程

時間	内容
12:00～12:30	受付
12:30～13:00	開会行事
13:10～14:00	公開授業
14:15～15:05	事後研究会
15:20～16:40	記念講演
16:40～16:45	閉会行事

7 記念講演 講師 澤井 陽介 氏（大妻女子大学大学院 教授）

8 参加申込等 参加料は無料。申込は本校HPまたは第2次案内QRコードから行う。

申込〆切 9月12日（金）

【担当】大分大学教育学部附属中学校
主幹教諭 三村 洋平
研究主任 末松 哲郎
〒870-0819 大分市王子新町1番1号
TEL 097-543-6731 FAX 097-543-4896